

日本独文学会  
春季研究発表会

2024年6月8日（土）・6月9日（日）

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 慶應義塾大学  
日吉キャンパス 第4校舎独立館

〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1  
E-Mail: tagung2024keio@jgg.jp

参加費

会員 1,500 円

学生会員 1,000 円

非会員（含む学生）2,000 円

（参加費は学会当日、受付にてお支払いください）

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel./Fax: 03-5950-1147

E-Mail（メールフォーム）：<http://www.jgg.jp/mailform/buero>

**第1日 6月8日(土)**

**開会の挨拶(10:00~10:05)**

**A会場(DB201教室)**

慶應義塾大学 七字 眞明  
会長 小黒 康正

**日本独文学会総会(10:05~11:30)**

**A会場(DB201教室)**

**日本独文学会・DAAD 賞授賞式(11:40~12:10)**

**A会場(DB201教室)**

**ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会(12:15~13:15)**

**A会場(DB201教室)**

**招待講演(12:45~13:45)**

深緑 野分氏：史実から物語を見つけ、フィクションに編み直すということ  
**D会場(D101教室)**

**ドイツ語教育部会総会(12:40~13:10)**

**B会場(DB202教室)**

**ドイツ語教育部会講演会(13:20~14:20)**

境 一三氏 (獨協大学 特任教授)：「資質・能力論」を柱にした外国語教育  
の質的転換の可能性について——新学習指導要領とその波及効果——

**B会場(DB202教室)**

## シンポジウム I (14:30~17:30)

C 会場 (DB203 教室)

ナチス体制下の「ふつうの人々」を 21 世紀に描く  
～歴史と創作のあいだ～

司会：伊藤 白、川喜田 敦子

コメンテーター：川島 隆

1. 「ふつうの人々」をどうとらえるか——ナチズム研究の視点から  
田野 大輔
2. ドイツの想起の文化と「ふつうの人々」  
川喜田 敦子
3. 「ふつうの人々」におけるナチ語彙の変奏  
高田 博行
4. 現代ドイツ文学に描かれるナチス時代の「良い」ドイツ人  
伊藤 白
5. 創作側から見た「ふつうの人々」と 21 世紀に語り継ぐこと  
深緑 野分

## シンポジウム II (14:30~17:30)

B 会場 (DB202 教室)

„Früher wollte ich immer nach Asien ...“. Robert Musil in Ostasien - Transkulturalität.  
Rezeption. Interpretation

Moderator: Thomas Pekar

1. Koreanische Musil-Rezeption am Beispiel von Die Verwirrungen des Zöglings Törleß  
Jiyoung Shin
2. Die Genauigkeit der Forschung und die Seele der Kritik — Zu zwei Ausrichtungen der Musil-Rezeption in Japan  
Minami Miyashita
3. Musil-Rezeption in Japan. Kenichirō Isozakis Roman Tsui no Sumika (2009) als Beispiel  
Mototsugu Katsura
4. „Meine Reinlichkeit heute noch eine Überkompensation?“ — Krankheit und Körper bei Robert Musil im Zeitalter des wissenschaftlichen Umbruchs in Ostasien und Europa  
Manuel Kraus
5. Robert Musils chinesisch inspirierte Utopie der Höflichkeit  
Thomas Pekar

口頭発表：文学、文化・社会 I (14:30~17:45)

A会場 (DB201 教室)

司会：山本 賀代・山口 祐子

1. 1800年前後のアレゴリー再評価と後期ヘルダーリンの詩学をめぐって  
大田 浩司
2. Die Last der Antike — Hölderlins Auseinandersetzung mit dem Winckelmann'schen Klassizismus  
Oliver Grütter
3. 『悲劇の誕生』と概念メタファー——ショーペンハウアーの意志形而上学の援用を巡って——  
前川 一貴
4. 初期ベンヤミンの歴史概念 リッケルトへの批判に着目して  
寒河江 陽

口頭発表：語学 (14:30~16:25)

D会場 (D101 教室)

司会：横山 由広・吉村 創

1. Sprachwandel und Variation im Deutschen: Wie kann der DaF-Unterricht mit neuen Formen gendergerechter Sprache umgehen?  
Angela Lipsky
2. 不定形で現れる sein + zu-Infinitiv について  
横田 詩織
3. ドイツ語における与格交替—— an-前置詞句の生起条件  
大矢 俊明

ブース発表 (15:30~17:00)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

E会場 (D201 教室)

AIを利用した音読指導——Microsoft Teams の「音読の練習」を利用して  
三澤 真

ポスター発表 (13:00~14:30)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

F会場 (日吉コミュニケーションラウンジ)

Absicht und Empathie in der Bewegungskodierung: Eine kontrastive Analyse von „kommen“ und „gehen“ im Deutschen und Japanischen

Liang Qi

ドイツ語教育部会  
「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示 (13:00~17:00)  
F会場 (日吉コミュニケーションラウンジ)

企画展示 (大会期間中開催)  
関口存男文例集展示 接続法を中心に

D204 教室

**懇 親 会 (18:15~20:15)**

会場：遊遊キッチン (生協食堂)  
会費：5,000 円 (学生・常勤職のない会員は 3,000 円)

**第 2 日 6 月 9 日 (日)**

**シンポジウム III (10:00~13:00)**

A 会場 (DB201 教室)

言 [こと] は事 [こと] なり：関口存男文例集の活用をめぐる

司会：田中 慎

1. 「関口存男文例集」の「目指したもの」と「これから」 佐藤 清昭
2. 「混沌たる」文例集が開く言語学の可能性——文例集×デジタルヒュー  
マニティーズの試み 内堀 大地
3. 再帰構文の機能の広がりについて——日本語の助動詞ラレルとの対照を通  
して 横田 詩織
4. 関口存男の「単回遂行相動作」の記述概念 出島 恒太郎

**シンポジウム IV (10:00~13:00)**

C 会場 (DB203 教室)

ロマンティック・ラブの出発点／消失点としての結婚  
1800 年前後の文学・芸術を例に

司会：宮下 寛司

1. J. M. R. レンツ『軍人たち』(1776)における結婚の失敗——自己決定する

- |   |       |
|---|-------|
| ヒロイン  | 田中潤   |
| 2. 愛による適切な関係——E. T. A. ホフマン『ダトゥーラ・ファストゥオーザ』<br>について | 中村 大介 |
| 3. 二人だけの結婚? ——ジェーン・オースティン『高慢と偏見』(1813)に隠<br>された矛盾   | 三觜 至音 |
| 4. ジゼル、ヒステリー、アラベスク                                  | 宮下 寛司 |

口頭発表：文学、文化・社会 II (10:00~11:55)

B 会場 (DB202 教室)

司会：桑田 文・Markus Joch

1. Japanese Thomas Mann-Rezeption zwischen Kulturheteronomie und Emanzipation  
– 100 Jahre japanische *Tonio Kröger*-Retranslation im Spiegel eines digitalen Topic  
Modeling –  
Nicole Marion Mueller
2. イロニーと非合理主義の連続性——「再素朴化」から考えるトーマス・マ  
ンのファシズム理解と 45 年の告白  
渡邊 能寛
3. ナチス時代の通俗科学的著作における「人造石油」をめぐる言説の問題点  
——アントン・ツイシュカを例として  
竹岡 健一

口頭発表：文学、文化・社会 III (10:00~11:55)

D 会場 (D101 教室)

司会：鈴木 伸一・白井 史人

1. シュリックの「怪物」、デーブリーンの「巨人」——「器官」を通じた自  
然とのつながりについて——  
相馬 尚之
2. クリスタ・ヴォルフと 1970 年代東ドイツ——『どこにも居場所はない』に  
おけるギュンダーローデ、ベッティナーネ、そして周縁の女性たちの声  
中村 祐子
3. Politische Propaganda im Schafspelz der DDR-Kinderliteratur

Sabine Randhage

閉会の挨拶 (13:00~13:05)

A 会場 (DB201 教室)

慶應義塾大学 三瓶 慎一

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展  
示が行われます。

## 会場のご案内

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス 第4校舎 独立館

〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1

最寄り駅：東急東横線・目黒線／横浜市営地下鉄グリーンライン「日吉」駅  
徒歩2分

## Informationen zum Tagungsort

Die Tagung findet auf dem Hiyoshi-Campus der Keio Universität (in „Dokuritsu-kan“)  
statt.

Adresse: 4-1-1 Hiyoshi, Kohoku-ku, Yokohama 223-8521

Der nächstgelegene Bahnhof:

Hiyoshi (Tokyu-Toyoko-Line / Tokyu-Meguro-Line / U-Bahn Yokohama-Greenline)